

## 飯舘村・村民のあの時・その後、そして今・今後

福島県飯舘村 杉下初男（元長泥区長、伊達方部飯舘自治会会長）

### 1. 村のあの時

原発事故 当時 停電で、テレビからの、情報が入らなかった。

1 1 日夜原発が危ないと、大熊町の子供から電話で知らせてくれた。  
ラジオを聞いて3日間過ごしていました。3日後電気が回復し、爆発する発電所の、映像がテレビから流れていました。

でも、ここは30キロ以上離れているので、安全だと思っていました。  
しかし 現実とは違っていたのです。

南西の風にのり飯舘方面に放射能が降っていたのです。

しかも大量の放射能が、長泥地区に降り注いでいたのです。

1 2 日 南相馬市より親戚、子供たち2家族が孫を連れて避難してきました。  
大量の放射能が降っている所に・・・・・・・・

その後は 皆様想像して、頂きたい

2 4 万ベクレルの土地の上で生活をするのを！

1 5 日朝 親戚、子供孫たちは、新潟、会津方面に避難をはじめました。私たち家族は、家の片づけをして避難先を千葉方面に決め18日に避難しました。

### 2. その後

3月27日 飯舘村長がテレビで「水が飲めるようになりました。」との報道があり、それを信じ飯舘に帰ることにしました。 息子を残して。

ところが長泥地区に帰ってみて、驚きました。文部科学省放射能データが35から90マイクロシーベルトあったのです。

その後は計画的避難の発表から避難まで2ヶ月間、長泥に留まらざるを得なかったのです。情報が正しく、しかも早く村民に伝わっていませんでした。

5月末 福島県伊達市方面に避難しました。その後24年7月の区域見直しにより長泥地区は期間困難区域に指定されました。政府は、出入りの際は必ずスクリーニングをすることとなっていますが、実際は一度も行っていない。

これがわが国の現実です。

住民は、防護服を一度も着たことはありません。

### 3. そして今

避難生活が長くなりそうなので大変心配しています。長泥地区は農水省のモデル事業として除染を実施しました。24年12月に終了、その結果、表の通りです。まだ帰れる数字でないと感じています。なぜなら長泥地区は全世帯自然水を利用しているからです。

## ③ 除染の結果(低減率)

- ・除染対象ごとの空間線量率(高さ1m)の低減率を見ると、庭等では堆積物の除去、表土の剥ぎ取り、被覆等の方法により平均で約60%、森林では除草、表土の剥ぎ取り、枝打ち等の方法により平均で約45%の低減率が得られた。
- ・また、除染対象ごとの表面汚染密度の低減率を見ると、屋根では堆積物の除去、拭き取り等の方法により平均で約60%、壁では拭き取りの方法により平均で約19%、庭等では平均で約44%、森林では平均19%の低減率が得られた。

除染対象	除染方法	空間線量率(高さ1m) 平均値			表面汚染密度 平均値			
		除染前	除染後	低減率	除染前	除染後	低減率	
		μSv/h	μSv/h	%	cpm	cpm	%	
建物	屋根	堆積物の除去 拭き取り	—	—	—	23,700	9,430	60.2
	壁	拭き取り	—	—	—	3,290	2,680	18.5
庭等		堆積物の除去 除草 表土の剥ぎ取り 被覆等	7.13	2.86	59.9	5,280	2,950	44.1
森林		除草 表土の剥ぎ取り 枝打ち等	5.26	2.89	45.1	4,600	3,740	18.7

平成24年12月16日  
環境省 福島環境再生事務所

### 4. 今後のことは

平成26年度からと、除染計画されていますが、その結果を見て、私たちは、考えていきたいと思っています。村行政に対して、今までの流れで、納得出来ない部分があります。現在、バリケードで閉鎖されている長泥に、戻るには家族と相談しながら決めていきたいと思っています。現在は別々に生活していますが、いつの日一緒に生活できる事を願っている毎日です。

また、心が晴れたことは一度もありません。

今日は、飯舘村の話聞いて戴きありがとうございました。